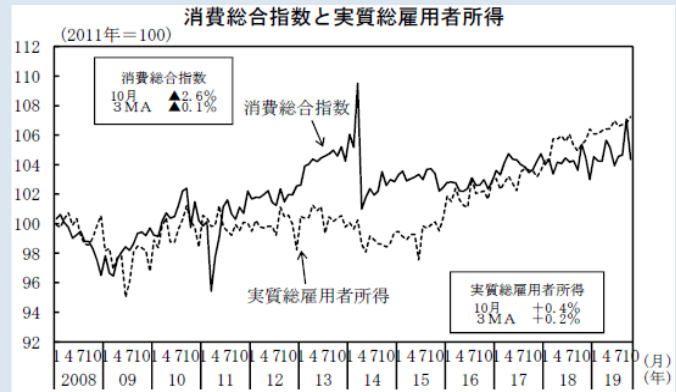


# 月例経済報告 (2019年12月)

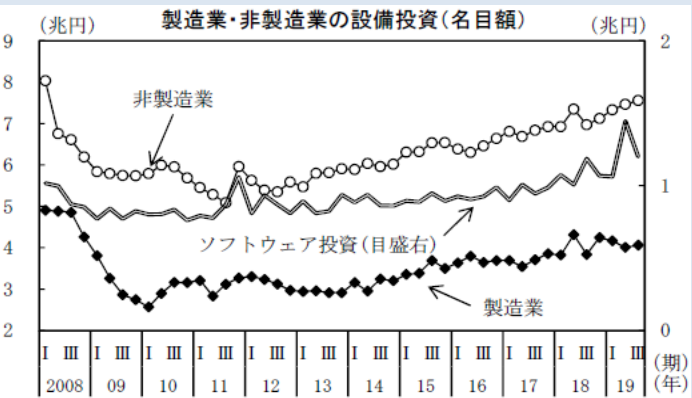
## ● 月例経済報告 (12/20)

基調判断	(12月) 景気は、輸出が引き続き弱含むなかで、製造業を中心に弱さが一段と増しているものの、緩やかに回復している。 当面、弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、通商問題を巡る動向、中国経済の先行き、英国のEU離脱等の海外経済の動向や金融資本市場の変動の影響に加え、消費税率引上げ後の消費者マインドの動向に留意する必要がある。
	(11月) 景気は、輸出を中心に弱さが長引いているものの、緩やかに回復している。 当面、弱さが残るものの、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。ただし、通商問題を巡る緊張、中国経済の先行き、英国のEU離脱の行方等の海外経済の動向や金融資本市場の変動の影響に加え、消費税率引上げ後の消費者マインドの動向に留意する必要がある。

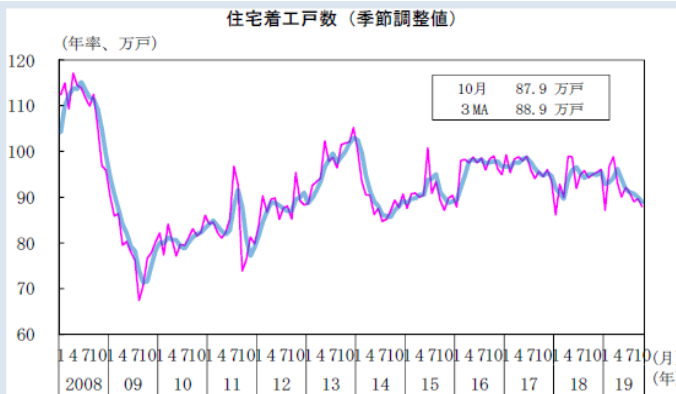
個人消費	(12月) 持ち直している。
	(11月) 持ち直している。



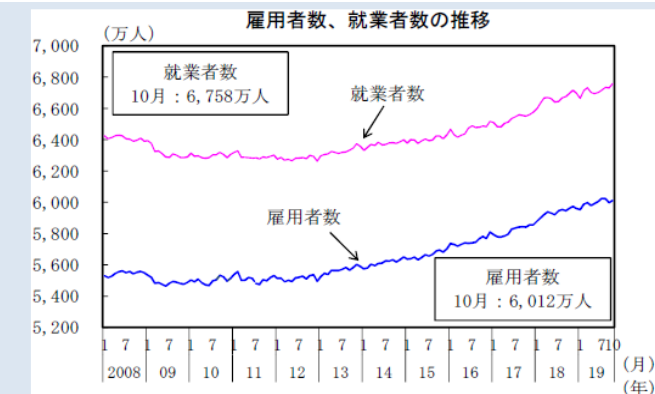
設備投資	(12月) 機械投資に弱さもみられるが、緩やかな増加傾向にある。
	(11月) 機械投資に弱さもみられるが、緩やかな増加傾向にある。



住宅建設	(12月) 弱含んでいる。
	(11月) このところ弱含んでいる。



雇用情勢	(12月) 改善している。
	(11月) 改善している。



<p>生産</p>	<p>(12月) 一段と弱含んでいる。</p> <p>(11月) このところ弱含んでいる。</p>	<p>鉱工業生産・出荷・在庫・在庫率の推移 (2015年=100)</p> <p>このグラフは、2008年1月4日から2019年4月7日までの期間をカバーしています。縦軸は左側に70から120、右側に80から160のスケールで示されています。生産（黒線）は右側の目盛りに従って変動し、出荷（赤線）は左側の目盛りに従って変動しています。在庫（青線）は右側の目盛りに従って変動し、在庫率（緑線）は左側の目盛りに従って変動しています。全体的に、生産と出荷は右肩上がり傾向を示していますが、在庫率は比較的安定しています。</p>																								
<p>輸出</p>	<p>(12月) 弱含んでいる。</p> <p>(11月) 弱含んでいる。</p>	<p>地域別輸出入数量指数 (2015年=100) ①輸出</p> <p>このグラフは、2008年1月4日から2019年4月7日までの期間をカバーしています。縦軸は60から180のスケールで示されています。全体（黒線）、EU（赤線）、アジア（青線）、アメリカ（緑線）の輸出数量指数が示されています。EUは11.3%、アジアは54.9%、アメリカは19.0%のシェアを占めています。右側の表は、11月の月別変動率と3ヶ月移動平均（3MA）の変動率を示しています。</p> <table border="1"> <tr> <td>EU</td> <td>11月</td> <td>▲1.1%</td> </tr> <tr> <td>EU</td> <td>3MA</td> <td>▲2.1%</td> </tr> <tr> <td>アメリカ</td> <td>11月</td> <td>▲4.7%</td> </tr> <tr> <td>アメリカ</td> <td>3MA</td> <td>▲3.0%</td> </tr> <tr> <td>アジア</td> <td>11月</td> <td>+2.3%</td> </tr> <tr> <td>アジア</td> <td>3MA</td> <td>+1.9%</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>11月</td> <td>▲2.2%</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>3MA</td> <td>▲0.5%</td> </tr> </table>	EU	11月	▲1.1%	EU	3MA	▲2.1%	アメリカ	11月	▲4.7%	アメリカ	3MA	▲3.0%	アジア	11月	+2.3%	アジア	3MA	+1.9%	全体	11月	▲2.2%	全体	3MA	▲0.5%
EU	11月	▲1.1%																								
EU	3MA	▲2.1%																								
アメリカ	11月	▲4.7%																								
アメリカ	3MA	▲3.0%																								
アジア	11月	+2.3%																								
アジア	3MA	+1.9%																								
全体	11月	▲2.2%																								
全体	3MA	▲0.5%																								
<p>国内企業物価</p>	<p>(12月) このところ下落テンポが鈍化している。</p> <p>(11月) 緩やかに下落している。</p>	<p>企業物価の推移 (2015年=100)</p> <p>このグラフは、2008年1月4日から2019年4月7日までの期間をカバーしています。縦軸は左側に95から107、右側に70から130のスケールで示されています。輸入物価（黒線）、輸出物価（赤線）、国内企業物価（青線）が示されています。国内企業物価は右側の目盛りに従って変動しています。全体的に、物価は右肩上がり傾向を示していますが、下落テンポが鈍化していることが確認できます。</p>																								
<p>消費者物価</p>	<p>(12月) このところ上昇テンポが鈍化している。</p> <p>(11月) このところ上昇テンポが鈍化している。</p>	<p>消費者物価の推移 (2015年=100)</p> <p>このグラフは、2010年1月4日から2019年4月7日までの期間をカバーしています。縦軸は95から102のスケールで示されています。生鮮食品及びエネルギーを除く総合（黒線）、生鮮食品を除く総合（赤線）、生鮮食品及びエネルギーを除く総合（消費税率引上げ等の影響を除く）（青線）、総合（緑線）が示されています。全体的に、消費者物価は右肩上がり傾向を示していますが、上昇テンポが鈍化していることが確認できます。</p>																								
<p>海外経済</p>	<p>(12月) 世界の景気は、全体としては緩やかに回復しているが、そのテンポは鈍化している。先行きについては、当面は回復の鈍さが残るものの、全体としては緩やかに回復していくことが期待される。ただし、通商問題を巡る動向、中国経済の先行き、英国のEU離脱、金融資本市場の変動等によるリスクに留意する必要がある。</p> <p>(11月) 世界の景気は、全体としては緩やかに回復しているが、そのテンポは鈍化している。先行きについては、当面は回復の鈍さが残るものの、全体としては緩やかに回復していくことが期待される。ただし、通商問題を巡る緊張、中国経済の先行き、英国のEU離脱の行方、金融資本市場の変動等によるリスクに留意する必要がある。</p>																									

月例経済報告：内閣府